

# リモートサーバ“ProxyLL”

## 構築マニュアル

### △基本用語

- ✓ Desk : デスクトップ提供者（デスクトップコントロールを受ける側）
- ✓ Owner : デスクトップコントローラ（共有されたデスクトップをコントロールする側）
- ✓ Client : DeskとOwnerをクライアントと言います。
- ✓ Proxy Server: クライアント間のデータ通信を仲介するサーバ
- ✓ Database server : ユーザーID及びパスワードを登録、検索するデータベースサーバ（MySQL server）

### △ MySQLサーバのインストール

MySQLサーバはFreeBSDをインストールしたPCにProxyサーバと一緒にインストールすることもできますし、Windows OSをインストールした別のPCにインストールすることもできます。

MySQLサーバはProxyサーバに接続するユーザーのログイン情報を保存、検索します。

- ① まず、MySQLサーバをインストールします。
- ② MySQL ¥ rddbフォルダをMySQLのデータベースフォルダにコピーします。  
たとえばFree BSDにMySQLがインストールされている場合、/rddbフォルダを  
/var/lib/mysqlフォルダにコピーします。  
WindowsにMySQLがインストールされている場合、（例： c:¥mysql）/rddbフォルダをc:  
¥ mysql ¥ dataフォルダにコピーします。

これによってrddbデータベースがMySQLにインストールされるようになります。

Rddbデータベースには'tbluser'だというテーブルが含まれていますし、現在'tbluser'テーブルにはテスト用として次の3レコードが登録されています。

| idkey | userid | username       | passwd |
|-------|--------|----------------|--------|
| 1     | admin1 | administrator1 | admin1 |
| 2     | admin2 | administrator2 | admin2 |
| 3     | admin3 | administrator3 | admin3 |

たとえば、クライアント（ownerソフト）がProxyサーバ（proxyLL）にログインするとき、ユーザーID及びパスワードを下記のように入力できます。

username : admin1

passwd : admin1

もしくは

username : admin2

passwd : admin2

※ 実際的な運営ではサービス使用許可を受けた登録ユーザーのID及びパスワードを'tbluser'テーブルに追加すべきです。

## △ FreeBSD 6.4でProxyサーバ(ProxyLL)のインストール

/server/FreeBSD6.4 フォルダをFreeBSDの任意の作業フォルダにコピーします。

### 1. mysql-client インストール

1) まず、下記のコマンドを実行します。

```
pkg_add mysql-client-5.0.45_1.tbz
```

※ 注: FreeBSD 6.3以上のバージョンにはmysql-clientパッケージが含まれています。ですから該当するバージョンのFreeBSDインストール版に含まれているmysql-clientパッケージを探してpkg\_addコマンドでインストールするように推奨します。

※ 注: こちらから提供するmysql-clientパッケージはFreeBSD i386用ですから該当サーバマシンがi386でない場合にはそのサーバ構築に使用しているFreeBSDに含まれているmysql-clientをインストールすべきであります。

2) 次のシェルスクリプトを実行します。

```
./mysql-install
```

もしシェルスクリプトが実行されない場合には次のコマンドでシェルスクリプトファイルの実行権限を設定して上のコマンドをもう一度実行します。

```
chmod 777 mysql-install
```

### 2. Proxyサーバ(ProxyLL) インストール

インストールは下記のシェルスクリプトの実行によって行われます。

```
./proxyLL-install
```

もしシェルスクリプトが実行されない場合には次のコマンドでシェルスクリプトファイルの実行権限を設定して上のコマンドをもう一度実行します。

```
chmod 777 proxyLL-install
```

## △ Proxyサーバ(ProxyLL)使用方法

proxyLLは非認証モードもしくは認証モードで動作するようになっています。

非認証モードはリモートクライアントに関する認証なしでサービスするモードです。実行時に「-m」オプションを指定しないと非認証モードで動作するようになっています。

認証モードはリモートクライアント (ownerプログラム)のユーザーID及びパスワードを認証して許可されたクライアントだけに限定してサービスするモードです。実行時、「-m」オプションでMySQLサーバのIPアドレスを入力すると認証モードに動作するようになります。

注: 認証モードに動作させるためにはMySQLがローカルで実行されていても「-m 127.0.0.1」もしくは「-m localhost」のように指定する必要があります。

コマンド入力形式:

```
proxyLL option ...
```

option:

| オプション | 値      | 説明                                       |
|-------|--------|--|
| -p    | 数字     | このサーバがユーザーの接続サービスのため待機しているポート番号(デフォルト80) |
| -s    |        | SSL接続モード指定                               |
| -m    | IPアドレス | MySQLサーバのIPアドレス(認証モードで実行)                |
| -d    |        | Daemon形式でサーバを起動                          |
| -u    | 数字     | 最大接続ユーザー数(デフォルト50)                       |
| -l    | ファイル名  | ログ記録ファイル名(デフォルト '/dev/null')             |
| -h    |        | ヘルプを表示する                                 |

例1: (非認証モード) 4989ポートでSSL接続によってユーザーと通信しようとする場合

```
proxyLL -p 4989 -s
```

例2: (認証モード) 172.16.8.1で実行するMySQLサーバを使用する場合

```
proxyLL -p 4989 -s -m 172.16.8.1
```

例3:(非認証モード)接続ユーザー数を30に制限する場合(サーバ負荷関連)

```
proxyLL -p 4989 -s -u 30
```

例4:(非認証モード)「log.txt」ファイルにログ情報を登録しようとする場合

```
proxyLL -p 4989 -s -u 30 -l log.txt
```

例5:(非認証モード)Daemonでサーバを始動する場合

```
proxyLL -p 4989 -s -u 30 -l log.txt -d
```